

令和 6 年度 自己評価結果公表

社会福祉法人クオラ
認定こども園クオラキッズ

1, 評価と取り組み状況

評価項目	取 り 組 み 状 況
保育・教育内容 ・計画・環境作り	・子どもが主体的に活動できる環境作りについて、年度当初から保育者間で検討会を重ね、子どもが意欲的に取り組む遊びの提供に努めた。特に 5 月からは戸外遊びを中心に子どもが選ぶ遊びが展開され、遊びの中での工夫、発見が新たな遊びを作りだすきっかけとなった。 ・異年齢での交流も始まり、年長児へのあこがれの気持ちを抱いたり、年下の子どもへの関りも出来るようになり、優しい気持ちも育ってきている。 ・ぴよぴよ・ひよこ・ねこ組も体を動かす遊びやスキンシップを用いた遊び等を大いに取り入れ、安心して遊び、生活の流れを知るようになってきた。 ・本園の保育教育方針でもある「体験遊び」については、「グランドゴルフ」「園外散歩」「山遊び」「親子歩こう会」「おれんじ鉄道乗車」「餅つき」「クッキング」「きのこの駒打ち」など年齢にあった体験をすることで、クラスの仲間意識が深まり友達関係が広がっていった。 ・年長児の子どもたちは、こころもからだも本園の保育教育目標に沿った力を付け卒園していく。
こどもへのかかわり	・子どもの権利を一番に考えた関わり方を心掛け、ひとりひとりの成長発達をとらえるために園長、主幹、担任で話し合いながら、目指す姿を入れた「個人記録」の作成を行った。ひとりひとりの子どもの思いを受け止め、1 対 1 で寄り添うことに努め、安心して生活ができています。 ・ぴよぴよ組は特に特定の保育者とのかかわりを大切に心身の安定を図った。
保護者対応 ・日々の連絡 ・ご意見対応	・年 2 回の連絡懇談会を実施し、園生活、家庭での様子の情報交換を行った。また必要に応じて個人面談をして育児等の相談にも対応した。 ・感染症や台風等の対応について早めの連絡を行い周知に努めた。 ・プール遊びや山遊びの監視に協力をもらい安全に楽しく遊ぶことができた。保育参観も年 1 回ではあったが実施でき、希望される方は給食の喫食もできた。 ・連絡帳を ICT 化し、保護者は自分のスマホから子どもの様子等の確認ができるようになり、以前より詳しく情報が出せるようになった。 ・運営の改善に対しての意見の対応については、職員間で話し合い検討した結果を保護者に周知した。
保育者同士の協力・連携	・毎朝の朝礼、昼の 5 分間ミーティングで一日に流れや報告を職員間で共有してきた。また、検討事項があると関係者での会議を行い、対策について話し合ってきた。 ・ひよこのへや、のびのびルーム部署別に月 1 回の会議を行い、月の反省をするとともに助言等をもらえる機会となった。 ・給食担当者、看護師、保育者等での合同会議では、運営に関して理念に沿った話し合いを月 1 回は行ってきた。
食育・給食	・2 歳児から子どもが育てたい野菜(トマト、ピーマン、そら豆、玉ねぎ、サラダホウレンソウ、さつま芋、ブロッコリー、キュウリなど)を植え、水かけを行いながら観察をすることで、野菜ができるまでの過程をしり、給食でおいしく食べることができた。

	・きのこの駒打ち体験を通して、シイタケにも興味を持つようになり苦手な子どもも食べられるようになってきた。 ・大豆やスポンジを箸等では運ぶゲームをすることで正しい箸の持ち方への興味が出てきている。 ・和食を多く取り入れ、野菜を十分に使用したメニューの組み合わせを検討してきた。副菜には野菜が入っている為、噛む力も出てきて野菜もよく食べるようになってきた。 ・アレルギー対応の話し合いを随時し、職員全体への周知を行い事故防止に努めた。
安全・衛生・健康管理への配慮	・子どもの朝の視診を入念に行い、体調がいつもと違う場合は、行動面の観察を十分に行い、早めに気づく配慮をした。 ・感染症の発生時には、早めに各家庭に知らせ、部屋の消毒を行い感染防止に努めた。 ・部屋で使う遊具は、午前午後と入れ替え、洗う、滅菌機に入れるなどして衛生的に環境を整えた。 ・手を良く洗う、うがいをする、具合が悪い時には保育者に知らせる等を子どもへ分かりやすく伝え、自分の体は自分で守ことを教えた。 ・遊具の点検、事故の対応などマニュアルに沿った配慮をした。
研修 (資質向上の 取り組み)	・子どもへの関わり方、子ども理解等の研修会(園外、園内)に職員全員が平等に参加できるようにした。 ・公開保育に向けて、他園の公開保育を参加し保育環境や計画立案について勉強をした。 ・子どもの人権、虐待、接遇について職員全員の意識を高める研修をした。 ・危機管理、感染症対応について意識を高める研修を行った。

2, 今後取り組むべき課題

保育方針・理念	・本園の保育方針の確認をしながら、保育者の保育観のすり合わせして、子どもの主体性を大切にしていく。
保護者対応	・保護者参加の行事等を早めに周知する。 ・園生活の様子を丁寧に伝える。
安全・衛生・健康管理への配慮	・予測されるこどもの行動を把握し、事故防止に努めるなど危機管理能力をさらに高める。
小学校との連携	・卒園児交流会を実施する。 ・小学校の先生との情報交換、架け橋プログラムの作成をする。
保育者同士の連携	・連絡漏れがないように周知の方法を検討していく。 ・
研修・資質向上	・子ども理解を深めるために広い視野を持ち、さらに専門的に子どもや保護者に対応できるよう研修していきたい。

以上の通り報告いたします。

令和 7 年 2 月 28 日
認定こども園クオラキッズ
園長 段 久美